



平成 25 年 2 月 6 日

関係各位

マイケル・ノーベル・エネルギー・技術シンポジウム 2013 開催の件

～アジアの太陽エネルギー利用を考える～

ーアジア・エネルギー・ネットワークについての産学の国際交流ー

主催 未来アジア技術フォーラム  
未来技術研究会(注1)

協力 東京工業大学原子炉工学研究所  
デリー工科大学  
ラジフガンジー工科大学

今後の日本、世界が必要とするエネルギー確保をどのようにしていくか、その将来の方向性について、3.11 原発事故を境に大きな議論を呼んでいます。この度、将来のエネルギー技術開発に取り組む、APS 開発研究会と未来技術研究会等の共催で、ノーベル財団のマイケル・ノーベル博士をお招きして、「アジアの太陽エネルギー利用を考えるーサンベルトを中心とするアジア・エネルギー・ネットワークー」をテーマとした構想や課題を討議する国際シンポジウムを開催いたします。

本シンポジウムは、サンベルトを中心とするアジア・エネルギー・ネットワークを日本の大学、大学発ベンチャーや、産業界にどう位置づけていくか、今後の課題と展望について考えるきっかけとするために、開催されますので、ご興味ご関心のある方々の参加を広く募ります。

#### 【記】

日 時： 2013 年 2 月 21 日(木) 14:00～17:55 (開場: 13:30) 18:10～19:30 (懇親会)

会 場： 東工大・大岡山キャンパス西 8 号館 E 棟 10 階「大会議室」

#### 【プログラム・講師】

14:00～14:05 ご挨拶

14:05～14:45 1. 基調講演

■ 「再生可能エネルギーの現在と将来」

東京工業大学 シニアリサーチフェロー マイケル・ノーベル博士

14:45～15:45 2. 大学からの提案

■ 「インド日本の大学連携～For IU<sup>2</sup> Leading to JE<sup>3</sup>～」

デリー工科大学 副学長 P.B. シャルマ氏

■ 「サンベルトを中心とした Asia Energy Network (AEN) 構想について」

東京工業大学 教授 玉浦 裕氏

15:45～15:55 3. インド地方政府からの提案

■ 「ウッタール・プラデーシュ州のエネルギー戦略」(注2)

ウッタール・プラデーシュ州 州首相 アキレッシュ・ヤダ氏

15:55～16:10 休憩

16:10～17:40 4. 産業界からの提案

■ 「日産のEVチャレンジ」

日産自動車(株)フェロー 博士 (工学) 久村 春芳氏

■ 「再生可能エネルギー分野における日印協調への期待」

Bergen Group 会長 R.クマール カウラ氏

■ 「アジアに向けての先進電力技術について」

～MERS 技術の電力への応用について～

東京工業大学 卓越教授 嶋田 隆一氏

(株)MERSTech 社長 志賀 雅人氏

17:40～17:55 5. まとめ

■ 今後の活動について

東京工業大学 教授 有富 正憲氏

神奈川工科大学 特任教授 平野 宏和氏

デジタルプロセス(株) 加藤 廣

(注) 海外講師の講演は、英語で行われます (日本人講師の講演は日本語です)。

当日の配付資料はありませんが、後日、資料の抜粋を、下記ネットに掲載の予定です。

プログラム等の最新情報もこちらでご確認頂けますのでご利用下さい。

[http://groups.yahoo.co.jp/group/mnobel\\_forum/](http://groups.yahoo.co.jp/group/mnobel_forum/)

18:10～19:30 懇親会

シンポジウム終了後、ざっくばらんな意見交換をお楽しみ下さい。

会場：大岡山キャンパス 大学食堂棟2階「季の味ガーデン」

**【定員】** 80名 申込み先着順に定員になり次第受付を締切ります。

**【参加費】** 講演聴講 一般 2,000円、学生 1,000円

懇親会費 3,000円 (一般、学生共)

(参加費は、当日、受付にて頂きます。おつりの無い様をお願い致します。)

**【申込方法】**

氏名、所属、連絡先 (郵便番号・住所・電話番号・E-mail アドレス)、懇親会参加の有無を明記の上、「マイケル・ノーベル・シンポジウム申し込み」と題記し、下記 E-mail アドレスまでお申し込みください。受付の可否を担当よりメールにて返信致します。

マイケル・ノーベル・シンポジウム事務局 (担当：国友、加藤、加茂下、八木)

E-mail: [obm-nobel sympo@dipro.co.jp](mailto:obm-nobel sympo@dipro.co.jp)

(注1) **未来技術研究会**は団塊世代の東京工業大学卒業生で運営する「エンジニアの異業種交流」研究会です (英語名: Future Innovative Engineering Society、略称「FIE の会」)。

本会の目的は「技術全般に関する国際・業際・学術的研究および研究開発管理の一層の発展を計るため、これに携わるものが一堂に集まり、情報や意見の交換を通じて相互に交流する機会を作ること」であり、1992年にスタートしました。現在16名の東京工業大学卒業生+オブザーバで構成し活動しております。

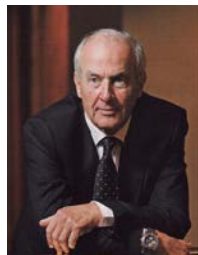
(注 2) ウットル・プラデーシュ州 (Uttar Pradesh) は、ガンジス川流域の平原にあり、インド国最大の州で、1億9000万人の人口があり、首都はラクナウ市です。

今回ヤダ首相 (Chief Minister, Akhilesh Yadav) は、日本とインド・ウットルプラデーシュ州とのエネルギー分野の産学連携の推進を目的に来日しました。ヤダ首相はインドで最も若い首相として、その手腕が期待されています。今回 Mohammad Azam Khan 議員と Choudhary Munawwar Saleem 議員も同行します。

-----講師紹介-----

■マイケル・ノーベル博士 (Dr. Michael Nobel)

東京工業大学・シニアリサーチ  
フェロー



・ノーベル賞の創設者アルフレッド・ノーベルの兄弟の子孫、ノーベル・チャリタブル・トラスト財団会長 (スウェーデン在住)

・ノーベル賞関連の活動のほかに、スウェーデン・サーブ社のアドバイザーなど多くの企業にアドバイザーの立場で助言、提言を積極的に実施している

[基調講演]

再生可能エネルギーの現在と将来

(Alternative Energy Now and in the Future)

■P.B.シャルマ (Professor P. B. Sharma)



デリー工科大学 副学長

[講演]

インド日本の大学連携～For IU<sup>2</sup>

Leading to JE<sup>3</sup>～

(Indo-Japan University-University Collaboration  
-For IU<sup>2</sup> Leading to JE<sup>3</sup>-)

■玉浦 裕(TAMAURA Yutaka)

東京工業大学 教授、理工学  
研究科化学専攻



[講演]

Energy Network(AEN)  
構想について

■アキレッシュ・ヤダ (Akhilesh Yadav)

ウットル・プラデーシュ州  
州首相



[講演]

ウットル・プラデーシュ州の  
エネルギー戦略

(Energy Strategy in Uttar Pradesh)

■久村 春芳 (KUMURA Haruyoshi)

日産自動車(株) フェロー  
博士(工学)



[講演]

日産の EV チャレンジ

■R.クマール カウラ (Rajinder Kumar Kaura)



CMD、Bergen Group 会長  
インド太陽エネルギー協会  
(SESI)事務局長

[講演]

再生可能エネルギー分野にお  
ける日印協調への期待

(Prospect of Collaboration between India and  
Japan in the Field of Renewable Energy)

■嶋田 隆一 (SHIMADA Ryuichi)



東京工業大学 卓越教授、原子炉工  
学研究所、MERS 共同研究部門  
[講演]

アジアに向けての先進電力技術  
について

~MERS 技術の電力への応用について~

2012/3/4 付読売新聞ノーベル博士関連記事

2012年(平成24年)3月4日(日曜日)

# ノーベル子孫「発明者目指せ」

## 北杜で講演 高校生を激励



東大の「一生かけるに値する」  
客員教授

ノーベル賞の創設者アルフレッド・ノーベルの兄弟ヤリタブル・トラスト財団「会長でもあるスウェーデン人のマイケル・ノーベル氏が2日、北杜市内を訪れた。同市の太陽光発電所「北杜サイト」を視察した後、市立甲陵高校で講演会を開き、生徒たちに「ぜひ発明者になつて」とエールを送った。

ノーベル氏が客員教授を務める東京工業大と同市は太陽光発電の研究で協力協定を結んでおり、ノーベル氏が「日本の高校を見学したい」と希望したことから訪問が実現した。北杜サイトについて「お世評でなく素晴らしい。更に改良して

いく柔軟性があれば」と期待を込めていた。

講演では、アルフレッド・ノーベルが高校生の頃に4か国語を繰るなど、物理、化学、文学など幅広い分野で「天才だった」と紹介。またノーベル賞について、受賞者一人の選定に約1億円をかけて慎重かつ公平に選ぶ裏話も披露し、「この中から受賞者が出るを確信している。研究者の道は決して易しくはないが、一生をかけてに値する偉い仕事だ」と激励した。

同校2年の高山千夏さん(17)は「将来、服飾関係の仕事で貧困の服飾環境改善にかかわり、ノーベル平和賞を目指したい」と目を輝かせていた。

高校生を前に講演を行うマイケル・ノーベル氏(2日午後、北杜市立甲陵高校で)